



# 一步、前進

## “信じる”ということの力

沖縄で開催された男子バスケットボールW杯。日本代表チームは見事パリ五輪の出場権を獲得した。大会前の日本の世界ランキングは36位。大会直前に発表されたパワーランキングでは26位と大きくランクアップしていたが、1次Rで対戦する3国も、それぞれ2位、6位、12位だったので、「さすがに厳しいだろう」、「どこまで善戦できるか」「次の五輪選考大会へのステップにできるか」というのが焦点だと思っていた。しかし、東京五輪での女子バスケット銀メダルと同様、予想は覆された。トム・ホーバスHCの手腕に改めて脱帽である。

トムさんは、「言葉の魔術師」と呼ばれている。彼はできるだけ日本語で話そうとする。試合中のタイムアウト（1分間）では、よく「ウチのバスケットを信じて」「自分（たち）の力を信じて」と叫ぶ。インタビューでも「信じてます」とか「自信あります」とよく言う。以下は、彼の著書『チャレンジング・トム』（ワニブックス）の内容の一部（要約）である。

「信じる」という力がとても大きなエネルギーを生み出す。皆、国の代表選手なのだから、少なからず自信はあるはずだが、足りない。弱いわけではない。足りないのだ。「100%勝つ」という自信が必要だ。自分のチーム作りはそこから始まる。

「100%の自信」は簡単ではないが、結果を出すことで自信が生まれる。目標を決めて、取り組み、そしてよい結果が出れば、やってきたことが自信になり、それを積み重ねれば、自信は確固たるものになる。

当然よい結果にならないこともあるが、結果を出せなくても、自信を失わない方法としては、プラスの面に目を向ける。選手自身にはマイナスの感覚が強いから、それはコーチの役割だ。コーチ自身がまずヘッドダウンしないこと。そして、失敗をポジティブにとらえて、コミュニケーションを取っていく。

自分一人では、結果が出なかった時、プラス面に目を向けたりポジティブに捉えたりすることは難しい。だから、周りの友達、教師、家族の言葉かけが大切だ。学習・部活動・行事…。日常では、なかなか自信を持ってないことは多いし、上手くいかずにネガティブになってしまうことの連続かもしれないが、やる前にネガティブになっているのは前に進むエネルギーは湧いてこないしきっかけもつかめない。トムさんはこうも言っている。「失敗は、チャレンジをミスしたことではない。チャレンジしようとしなかったことだ。」

（校長:佐藤 浩二）